

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 2月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372300907		
法人名	医療法人社団 博文会		
事業所名	グループホーム 永の郷		
所在地	熊本県熊本市南区城南町永1209		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 22 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 31 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成28年 3月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念に基づいてキャリアが長く、職員全員が有資格者であり、ご利用者の個性をいろいろな角度から考察し、その人らしい生活ができるような取り組みができていと思う。また、ご家族から見慣れた職員のため安心感があり、信頼関係もある程度築いていると確信している。環境面では広い敷地で田園地帯に囲まれる静かな環境にあるため、ゆったりとした時間がながれている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所では職員の定着率も良く、長い職員では10年超、短い職員でも5年以上だそうです。そのキャリアを生かして、利用者ひとりひとりと向き合い、いろいろな角度からの考察を行い、出来ることを教えてあげ、自分で出来ることは自分でしてもらい、それこそ尊厳だと考えている。これまで要介護度が改善した方やコミュニケーションが取れるようになった方、車イスから自立歩行になった方などおられ、その中には味覚障害が激しく、見守りが欠かせなかった方が今では洗濯物干し・たたみ、ご飯のつぎ分け、それもとてもしゃべりに出来、会話も出来るようになったそうです。職員からは、何をしたらいいか悩む時は、とにかくスキンシップや爪切り、声掛けなどを行い寄り添うようにしていることや、今この利用者には何が必要か、なにか出来るはずと考え、やってみる様にしていると話がありました。また、利用者の尊厳やプライドを傷つけるような言葉使いや行為が見られた時には、職員同士でも気軽に指摘しあえる関係を築いているようです。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが地域の中で自立した幸せな日常生活をおくる」ための文言が理念の中で謳われており、毎朝復唱することで、理念の共有を図りながら実践につなげている。	徐々に出来ることが少なくなる中、四季折々の歌や体操などを取り入れ、一緒に過ごすようにしている。利用者が、困まる様なことをする時はその裏返しでさびしいのでは？構って欲しいのかな？と思う様になっている。何をしたらいいか悩む時には、とにかくスキンシップや爪切り、声掛けなどを行い、家族のように寄り添う支援を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として会報の回覧、併設グラウンドの地域への開放、また当法人主催のグラウンドゴルフ大会の開催、地域運営推進会議メンバー等地域に根ざしている。	事業所は自治会に入会しており、会報の回覧など、区の一員として活動している。また併設グラウンドの開放や、防火水槽用地・駐車場用地としても地域に開放しており、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議のメンバーに自治会長、民生委員、老人会長、保育園園長、グラウンドゴルフ協会役員等の方々がいらっしゃるので、皆で共有するような取り組みはしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年6回は6回実施しているが上記のメンバー以外に地域包括支援センター、有識者の方々と常に議題についての検討をしている。	会議では、利用者の年齢構成や要介護度及び入居期間などの利用者概況、その他事業所が取り組んでいる地域交流や行事について報告している。参加者からは、災害対策などについても質問が出され、検討を行っている。	運営推進会議は認知症ケアや地域密着型サービスの理解啓発を図り、事業所が地域づくりの拠点として機能することを目指しています。メンバーも地域の有力者をはじめ、多岐にわたっており、事業所の取り組みや課題、また地域が抱えている問題点なども話し合える場となることを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター中心の地域ネットワークには常に出席し、協力関係を築いている。	地域包括支援センターとは良好な関係を築いており、会合には常に参加している。地域包括支援センターが主催する地域ネットワークでは、現在城南町の福祉マップづくりを行っている。また市役所との連携では、何かあれば高齢介護福祉課に連絡を入れ、助言や指導を受けている。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「NO虐待・身体拘束」をモットーに職員全員意識している。研修、勉強会などで、日常的に全員が共有できるような取り組みをしている。	事業所は「NO虐待・身体拘束」を掲げており、研修会に参加したり、年に1回は内部勉強会も開いている。ただ現状では、昼間でも玄関の施錠を行っており、リスクとの狭間でやむにやまれぬ対応とのことである。	事業所では、要介護度の改善が見られたり、車イスの方が自立歩行になったりなど、介護技術の高さには目を見張るものがあります。この施錠も一時的なものであると思います。開錠への取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修では、県のライブラリーの資料での勉強会や包括主催の講演会での弁護士等の講演に参加したり、ニュースなどで取り上げられた事件を朝礼での議題にし、常に意識を持つような取り組みを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ご利用者の中にも直系の家族がいない方もおられるので、いつも考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にお会いして、こと細かい説明をし、できるだけご家族の不安、疑問にお答えしているつもりである。契約時にもかなりの時間を要している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の家族会開催の場で、できるだけオープンに意見交換ができるような会雰囲気作りにつとめている。	事業所では家族とのコミュニケーションに力を入れており、2ヶ月に1回、年に6回の家族会を開催している。クリスマス会の際には、職員手作りの弁当を囲んで行われている。	今後も家族とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望、また苦情などの言い易い雰囲気づくり努め、サービスの質の向上を目指してほしいと思います。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内勉強会の場では必ず今の職場の現状を皆に一言づつ発言してもらえるにはしているが、なかなか本音が言えない場合もある。	事業所内の勉強会では、全職員に発言の機会があるが、管理者が思うように意見が出ないとのことである。事業所には、経験豊富で信頼のおける職員もおり、職員の本音を聞き、その対応をある程度任せている。管理者からは、福利厚生や互助会についても考えており、職員から要望として上がってくることを期待しているという話があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も週一回のペースで事業所に来て、職員とのコミュニケーションを図り、改善に努めている。また、社会保険労務士も月一の間隔で来て、職場環境・条件についての話し合いがなされている。		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内の勉強会は月1ペースで実施している。また、行政・社協・包括・ブロック会等の勉強会には、特に積極的に参加しているし、講演会にも必ず出席するようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>ブロック会にはできるだけ出席するようにしている。情報交換の場としてはある程度の効果は感じる。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用前にかかなりの時間を要して、情報を集めるように努めている。また、ご本人への面談は必ず実行している。さらに契約時にもあらためて話しを聞いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まづ必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所されてからのほぼ一ヶ月はご家族にも特にご協力をしていただき、職員全員が緊張感をもって細かい観察につとめている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>理念をしっかりと理解体感してもらっているので、家族と同様の意識で生活できていると思われる。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>開かれたホーム作りを目指しているので、いつでも気軽にご家族には来ていただき、職員がご家族のお尋ねにだれでも回答できるようにしているつもりではある。</p>		

20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者の供養や墓参りなどの節目時はできる限りご家族や馴染みの方々と時間を共有していただきたいと思っ ているが、ご入居期間が長くなっていくと年々少なくなっ てきている。	家族会が2ヶ月に1回開催しており、出来るだけ利用者と家族が時間を共有できる よう支援している。中には週に1~2回も顔を見に来られる家族もあ ったり、また一時帰宅されたり、法事に出席されるような方もお られ、今後も関係継続の支援に積極的に取り組む方針との事である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が 関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一回程度皆様で外出したり、日課の中にもリハビリ体操、今月の歌を3曲程度歌 ったりして一緒に暮らす連帯感を感じていただいている。また、席の並び にも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に 応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前のご相談にも気軽に 応じ、転居先にも惜しまず情報提供を協 力している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	今やりたい希望を叶えられるように、迅速に対応している。例え ば、買い物、帰宅等もちろん帰宅時にはご家族と調整をはかっている。	職員からは、自分の実体験に基づいた話があり、「声掛け一つに しても業務的な声掛けではなく、今この方には何が 必要なか？と心を込めて優しい声掛けをすること で、思いや意向を引き出すことが出来ればと考 えている。」という話が聞かれた。また、「おは ようと挨拶しても、返事がなければ何かあるん じゃないか？と思うようにしている」という話も 聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族からのお話は尊重しつつも、本人とのコミュニケーションや行動の中 から今の生活をより本人の意向に近づけられるように努 めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努 めている	ご本人の1日の生活動向の観察に主眼にして、起床時のバイタル チェック、レク等の参加状況、生活リハ依頼の引き受け方などから 現状把握するように努 めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	計画作成担当者も皆様の状況を細かく把握できつつあり、昨年 に比べよい介護計画ができているように思いま す。モニタリングは各職員からの記載をもとに計画に反映させてい る。	家からの要望などの聞き取りについては、日頃の面会時や家族会を利用 して行っている。家族会まで待たないような場合には、電話を利用し て聞き取りを行うこともある。管理者は、計画作成担当者の詳細な 状況把握と毎月のモニタリングを通して、より現状に即した介護計 画が出来ると感じている。	

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者が真ん中のプラン作りを皆で考えている。また記録する際、できる限りネガティブな表現や言い回し方を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆様には、いかに自由な空間の中で生活していただくかを職員間のテーマに取り組んでいるのでかなりの部分既存のサービスにとらわれないケアを実践していると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係の強化などで有効な社会資源を上手く活用しながら皆様方の豊かな暮らしを楽しんでいただける実践につなげたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切にし、家族、職員連携しての通院支援、協力医の往診を仰ぎながら、迅速に対応している。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医の定期受診、専門医の受診とも家族・職員が連携して対応している。現在、歯科の在宅管理指導を受けている利用者が7名、認知症の専門医を受診している方が1名おられる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の他事業所の看護師に迅速に診てもらったり、相談して適切に受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係の方とは密に連絡はとっている。職員も頻回に交替で面会し、洗濯物の交換や状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅診療、訪問看護を抱えている病院等との話し合いをしながら、ターミナルケアへの一歩をふみだしている。	これまで、事業所で亡くなられたことはあるようだが、ターミナルケアは行ってこなかったようである。そこで、事業所としては、ターミナルケアに向けた取り組みを始めようと、在宅診療・訪問看護に実績のある医療機関との話し合いを始めている。	看取りの重要性が指摘されています。また一方で看取りに立ち会った職員の悩みも報告されています。医療機関との連携、家族の協力と理解、職員のスキルアップ等々、十分な準備を行ってください。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の応急処置は学習できている。しかし、急変時は管理者や計画作成担当者が連絡を受け、救急搬送に同行するようにしている。		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議メンバーを中心に近隣地区の方々のご協力は期待している。	避難訓練は年に2回行っており、1回は消防署指導のもと、また1回は夜間を想定して行っている。訓練には外部から、自治会長、民生委員、グラウンドゴルフ会長の協力を得ている。災害時の備えとしては、飲料水とレトルト食品などを準備している。	災害の発生に対して、利用者の確実な避難誘導が求められます。日頃の訓練の重要性を再認識し、本当にこれで大丈夫か、今一度考えて欲しいと思います。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの個性や特性を見つけ出し、出来ることを自身でやっていただくことこそ人格の尊重につながると考える。	日々の係わりの中で、尊敬の念を欠いた対応をすると、すぐに伝わり不穏になる。それがすぐく敏感に反応が出ると感じている。他の職員がそういう対応をしていますが、すぐに分かるそうです。指摘する事には抵抗感もあるが、利用者の為と思い、職員同士でも注意しあい、改善するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にすることと、共同生活を楽しむことは相反する場面もあるが、業務優先にならないように、いつも葛藤しながら取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、食後の着替え、入浴後の爪きり化粧、髭剃り、外出時の身だしなみ等いろいろな場面で支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様のできる範囲で準備、片付けを一緒にしている。また、個々に応じた、食事形態を提供している。	現在、介助が必要な方が1名、その他の利用者にも色々な個別対応を行い、完食を目標としている。例えば、おかゆ一つにしても普通のご飯にお湯を入れて炊き、カロローアップを目指したり、器の大小を使い分けて見かけの量を少なく見せたり、色つきの茶わんを用いたり、ご飯を出すタイミングを考えたりなど、また粗キザミやミキサー食、トロミ付けなどは、勿論ひとりひとりの能力に応じた対応を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の準備は、ご利用者も個々の状態に応じた食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員、ご家族とも理解しているので、力を注いでいる。また、月に3～4回の訪問歯科による口腔ケアを受けられる方もいる。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンが把握できているので、ほぼ実践できていると思う。要介護5の方も日中はトイレでの排泄が基本です。	現在、自立している方も1名おられる。車イス以外の方は、自立歩行が可能で、立ち上がったリトイレを探されたり、トイレに行きたいと声をかけられたり、また3日通じがない場合は下剤の服用を行っており、服用後何時間など、ほぼひとりひとりのパターンを把握しており、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンはつかめているので、個々に応じた下剤などの取り組みがほぼできている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3～4回で入浴していただいている。特に汚染がひどい方などは頻回にその都度入浴していただいている。	お湯の量はオーバーフローの状態です。拒否される利用者もなく、大体午前中で終わる様である。入浴の支援が男性ではダメと言われる利用者もおられる様である。入浴時の注意点としては、転倒防止、皮膚の状態、また皮膚の色が変わっている場合などは病気によるものか職員がしっかり握った為に出来たものかを観察するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時刻を設定していないので、その方ひとりひとりのサイクルに合うようにしているので、皆様方よく眠られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はご利用者の命に直結する問題なので職員ひとりひとり自覚している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活にリズムをつける意味で「体操」「今月の歌」を皆様と決めている。また、グラウンドでは散歩、季節の花見、野菜の収穫なども楽しみの一つにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わえるように、最低月一程度はドライブ、外出をしている。ご家族にも時折お願いしている。	回数的には減ってきているとのことであるが、グラウンドを散歩したり、野菜の収穫時には畑に出たり、また花壇の花を見に出かけたりしている。季節折々に桜やあじさい、コスモスなどの見物に外出している。桜の花見は、職員手作りの食事を味わいながら楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができられる方が極めて少数なので買い物希望あられるかたは外出時に一緒に買い物することもある。		

51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話がかかることもまれである。手紙は書けそうな方が入られたので、実践したいと思っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>時間の経過と共に今にふさわしくない空間もあるが、創意工夫、職員の知恵ですみよい環境作りをしたい。</p>	<p>利用者の皆さんが集われるリビングは日当たりもよく、とても明るく、穏やかな空間となりました。また室内環境にも気をつけており、空気の入替えや温度・湿度の管理には十分注意を払っている。浴室のタイル剥離については、何回も手直ししているが、うまくいかないとのことである。利用者がケガをすることのない様、十分に注意を払っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルの大きさや配置など四六時中職員で思案している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人やご家族の意思を尊重して、配置していただいているが、レイアウトでご本人にリスクが考えられる時には職員がアドバイスする場合があります。</p>	<p>居室の基本的な設備は、ベッド、クローゼット、エアコンとなっている。寝具やタンス、その他の日用品については使い慣れた物を持参してもらうよう話している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>スプリンクラーおよび火災通報装置設置が済んでおり、より安心していただける空間にできている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない